

# 会社説明会資料

---

---

2012年3月19日



三光産業株式会社  
SANKO SANGYO CO.,LTD.

(証券コード:7922)

# 目次



- 会社概要 3～13
  - 4. プロフィール
  - 5. 当社の売上構成
  - 当社の製品紹介
  - 6. ①AV機器関連製品(HDDレコーダー)
  - 7. ②AV機器関連製品(デジカメ)
  - 8. ③AV機器関連製品(携帯電話)
  - 9. ④OA機器関連製品(その他)
  - 10. 生産拠点
  - 11. 当社の強み
  - 12. 業績推移
  - 13. 業種別売上高の推移
- 2012年3月期 第3四半期決算報告 14～17
  - 15. 第3四半期決算概要
  - 16. 1～3Qトピックスと通期計画について
  - 17. 四半期業績推移
  - 18. 四半期貸借対照表
- 今後の展開 19～27
  - 20. 事業環境と重点施策①
  - 21. 事業環境と重点施策②
  - 22. タッチパネル関連ビジネス進捗状況
  - 23. 新市場の開拓
  - 24. 中国・光華産業の状況
  - 25. 中国及び海外展開の今後の施策
  - 26. 中期数値目標
  - 27. 株主還元・資本政策について

# 会社概要

# プロフィール



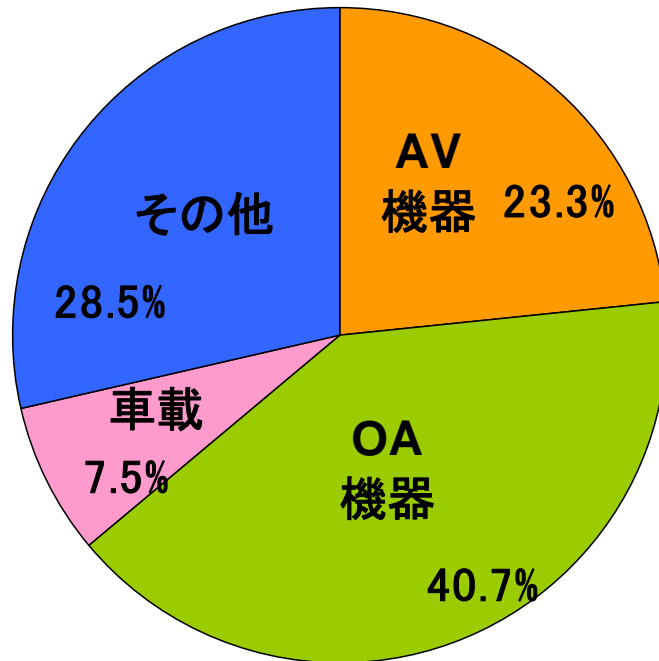
- 商号 三光産業株式会社
- 本社 東京都渋谷区神宮前3-42-6
- 代表者 代表取締役社長執行役員 山原 剛之
- 設立 1960年4月1日
- 事業内容 接着剤付ラベル・ステッカーの製造販売
- 資本金 18億5,075万円(2011年12月末)
- 関係会社 三光プリンティング株式会社  
サンコウサンギョウ(マレーシア)  
光華産業有限公司(香港)  
燦光電子(深圳、光華産業の子会社)
- 従業員数 228名(単体)、848名(連結)(2011年9月末)

# 当社の売上構成

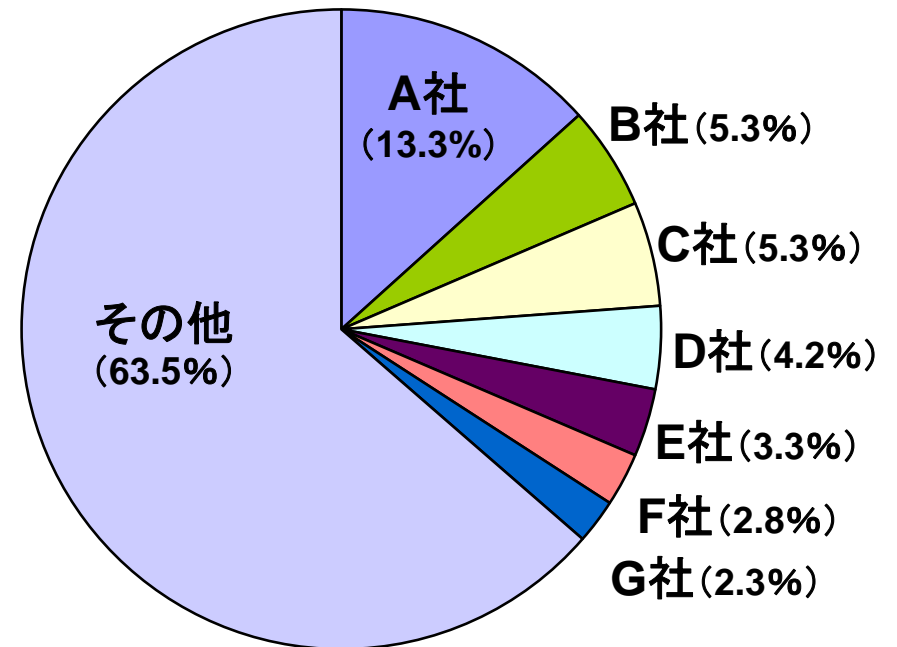


2011年3月期

業種別売上構成(連結)



顧客別売上構成(単独)



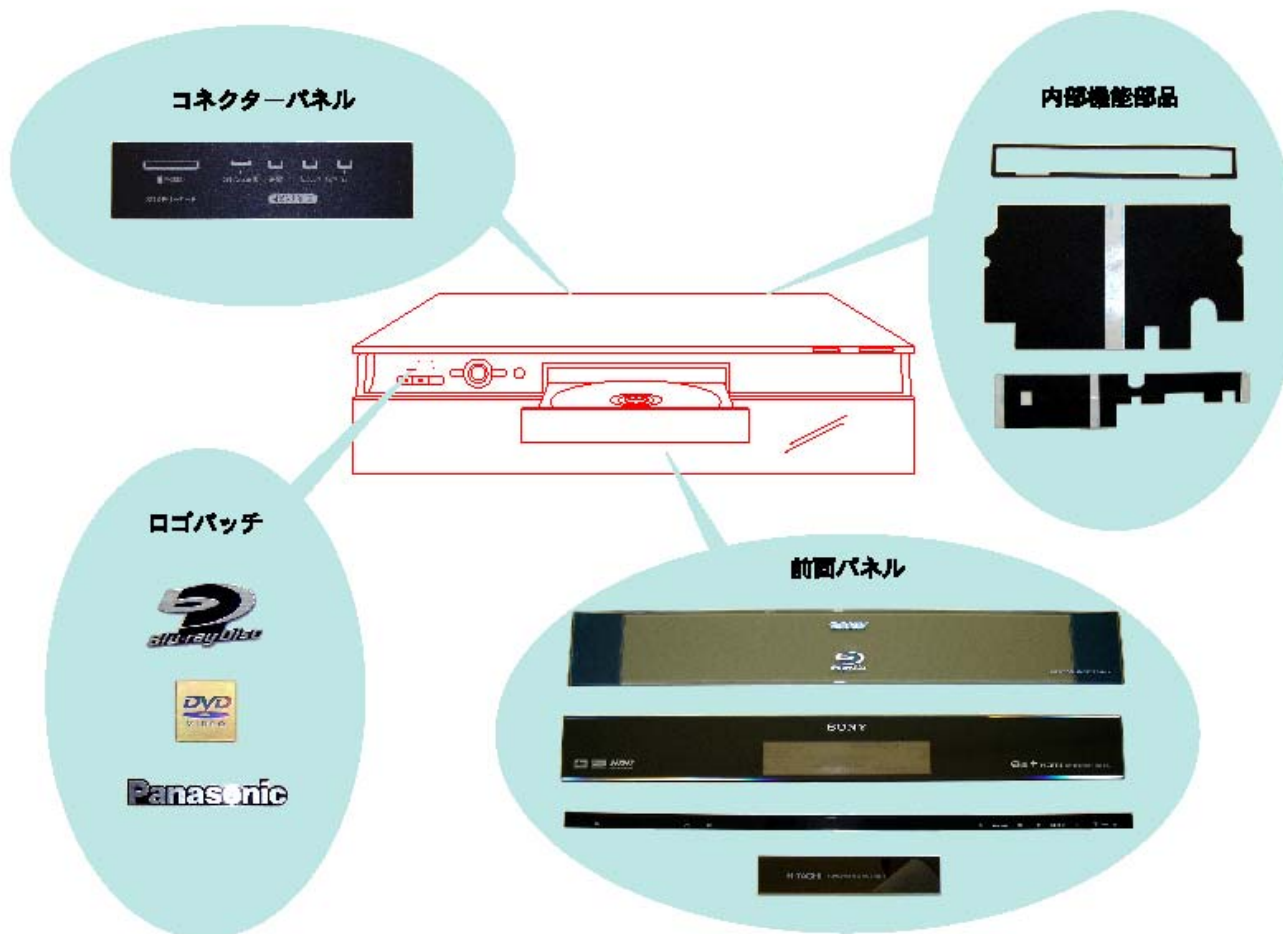
NEC TDK アルプス電気 ソニー 凸版印刷 パナソニック  
日立製作所 富士ゼロックス 富士フイルム 三菱電機等  
約1000社(敬称略) (五十音順)

# 当社の製品の紹介①



HDDレコーダー向け部品

AV機器製品



# 当社の製品の紹介②



デジタルカメラ向け部品

AV機器製品

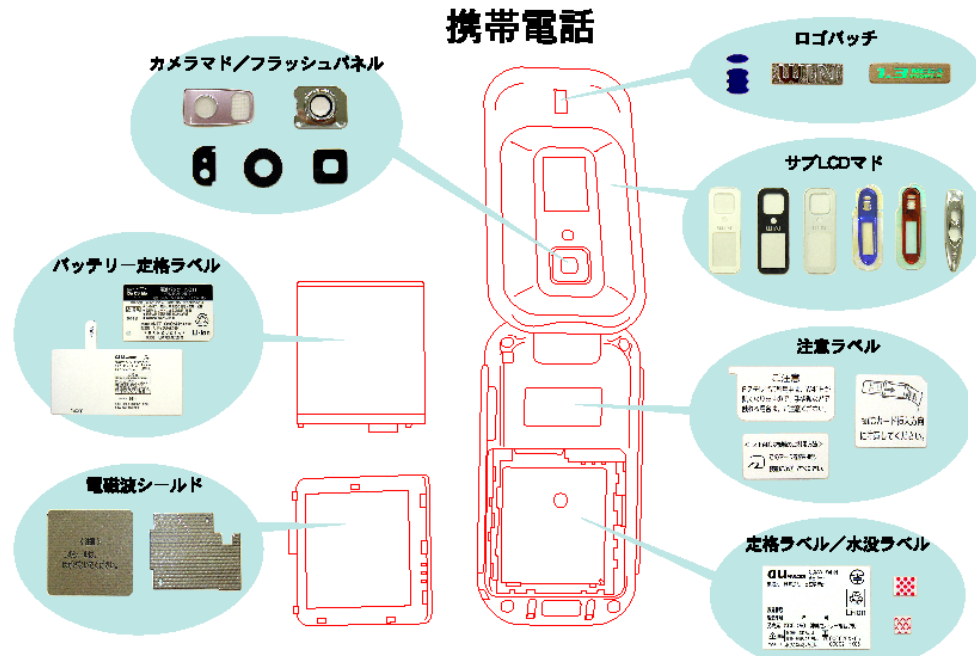


# 当社の製品の紹介③



## 携帯電話機向け部品

## OA機器製品





# 当社の製品の紹介④



## 電池シール・広告関連(その他)



# 生産拠点



11年3月期 単位:百万円

	印刷方式	建物面積	生産実績
方南工場	シール主体	1,211 m <sup>2</sup>	377
千曲川工場	輪転機主体	2,406	325
川越工場	オフセット主体	4,578	587
大阪工場	シール・シルク主体	(948)	514
マレーシア	シール・シルク・輪転機主体	2,986	490
中国深圳	シール・シルク・輪転機主体	2,200	939
三光 プリンティング	シール主体	611	215

( )は賃借物件

# 当社の強み



1. 大手電機メーカーグループとの取引が中心
2. 顧客の様々な要望に対応する体制
  - ① 幅広い印刷方式・加工技術を装備
  - ② 外注を使うコーディネーション力
  - ③ 積極的な中国展開

約4万種類の製品

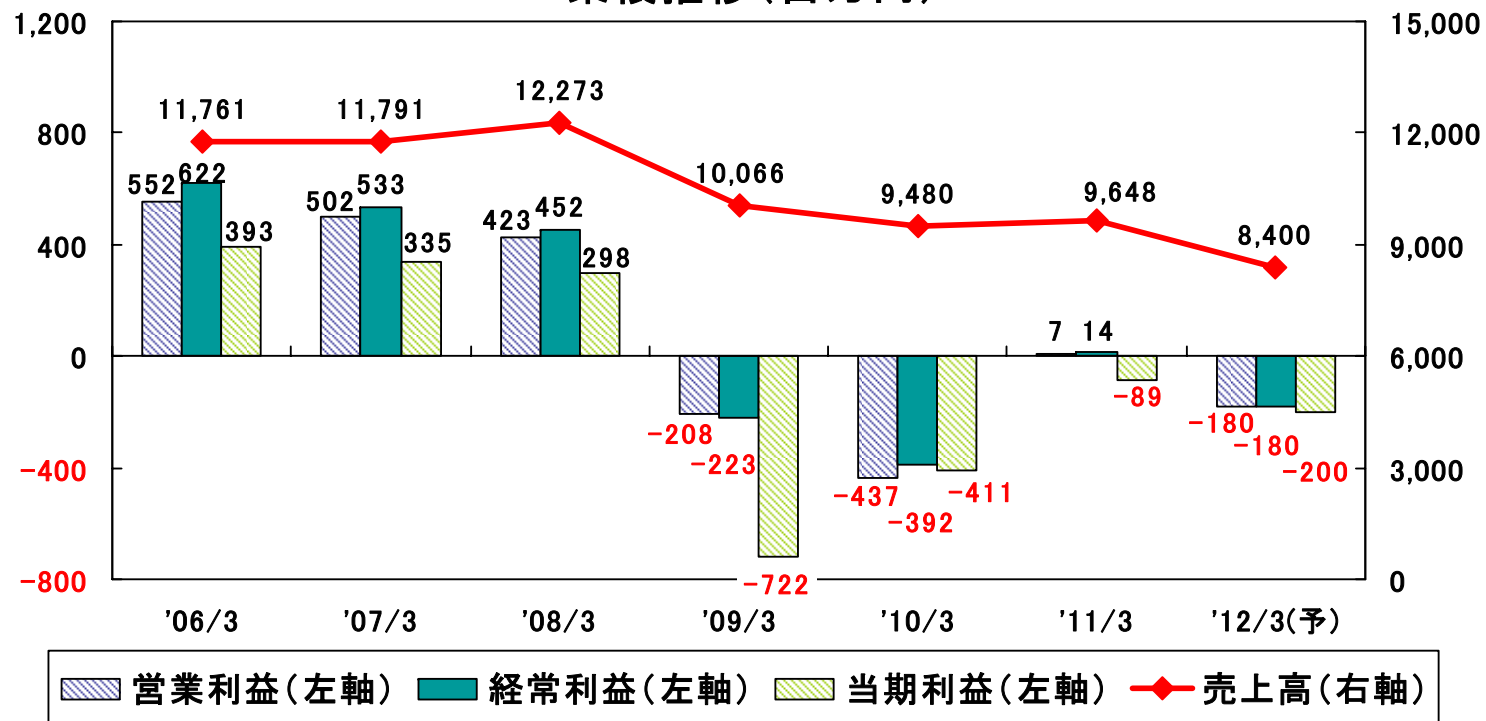
1,000を超える取引社数

# 業績推移



- 前11/3期は、セットメーカーの原価低減姿勢が強まり、海外への生産移管が進んだが、積極的な営業活動を展開するとともに、生産効率の改善に取り組んだ。スマートフォン向け等タッチパネル部材の伸長などで、増収を維持し、経常利益はわずかだが黒字に転換した。
- 今12/3期は、急激な円高の影響による取引先の海外への生産移管がさらに加速しており、引き続き厳しい受注環境が続くと考えられ、経常赤字の見通し。中国を中心に海外拠点の強化を図り、早期受注回復を目指す。

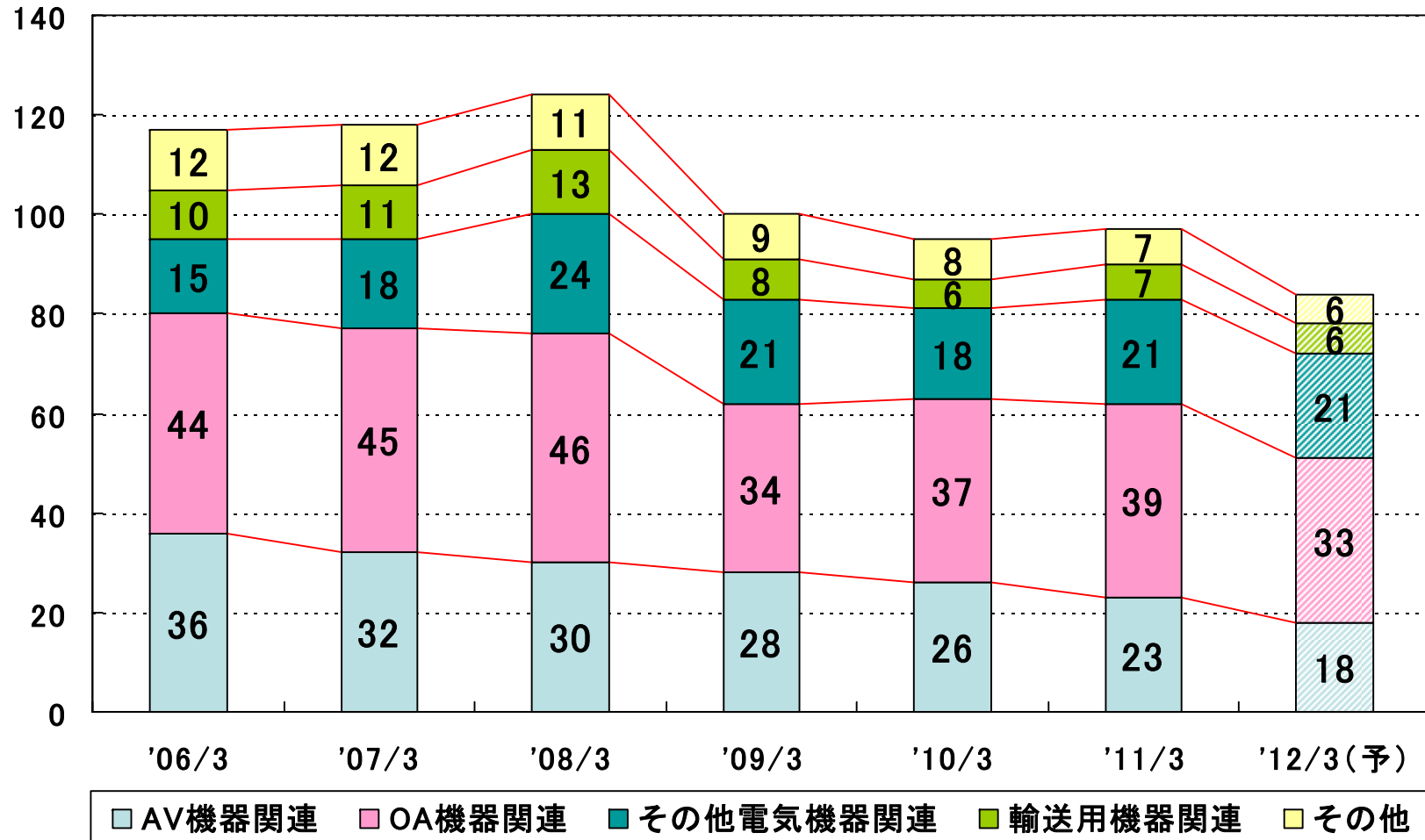
業績推移(百万円)



# 業種別売上高の推移



単位: 億円



2012年3月期  
第3四半期決算報告

# 第3四半期決算概要



単位:百万円, %

	11/3期 1~3Q累計		12/3期 1~3Q累計			12/3期 通期計画		
	金額	構成比	金額	伸長率	構成比	金額	伸長率	構成比
売上高	7,440	100.0	6,138	▲17.5	100.0	8,400	▲12.9	100.0
AV機器	(1,794)	(24.1)	(1,296)	▲27.8	(21.1)	(1,800)	▲20.0	(21.4)
OA機器	(3,011)	(40.5)	(2,398)	▲20.4	(39.1)	(3,300)	▲15.9	(39.3)
その他電子機器関連	(1,607)	(21.6)	(1,492)	▲7.2	(24.3)	(2,100)	▲ 0.4	(25.0)
その他	(1,027)	(13.8)	(949)	▲7.2	(15.5)	(1,200)	▲12.8	(14.3)
売上総利益	1,322	17.8	1,075	▲18.7	17.5	1,500	▲13.3	17.9
営業利益	20	0.3	▲190	—	▲3.1	▲180	—	▲2.1
経常利益	6	0.1	▲176	—	▲2.9	▲180	—	▲2.1
(当期)純利益	▲86	▲1.2	▲225	—	▲3.7	▲200	—	▲2.4

# 1～3Qトピックスと通期計画について



## 1～3Q決算のポイント

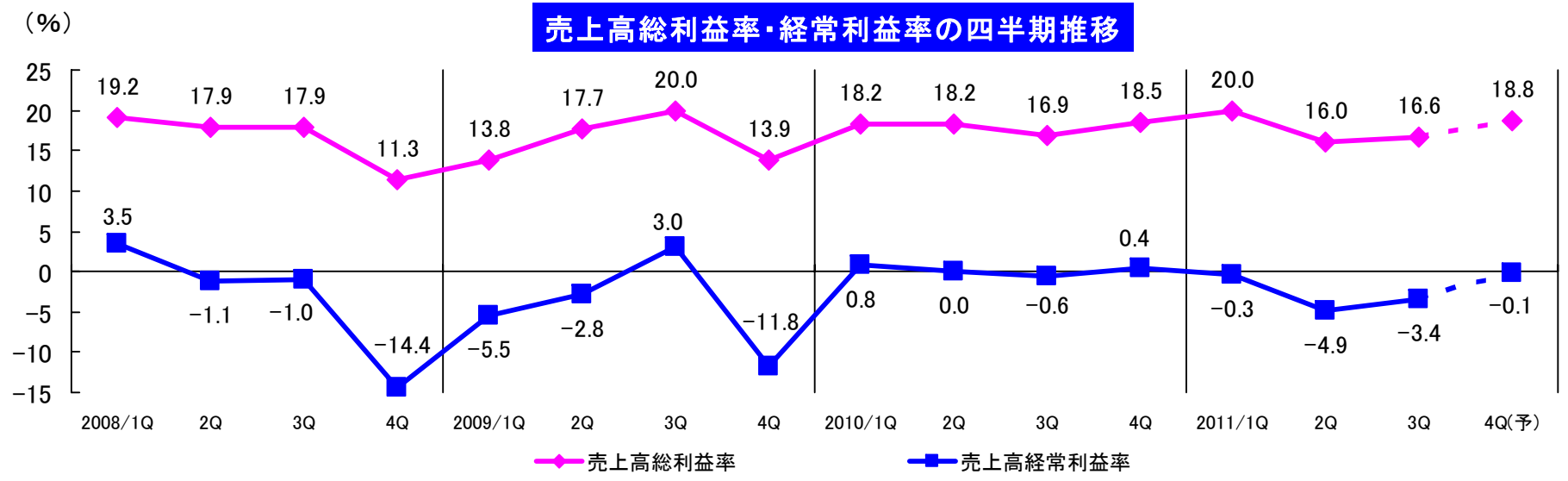
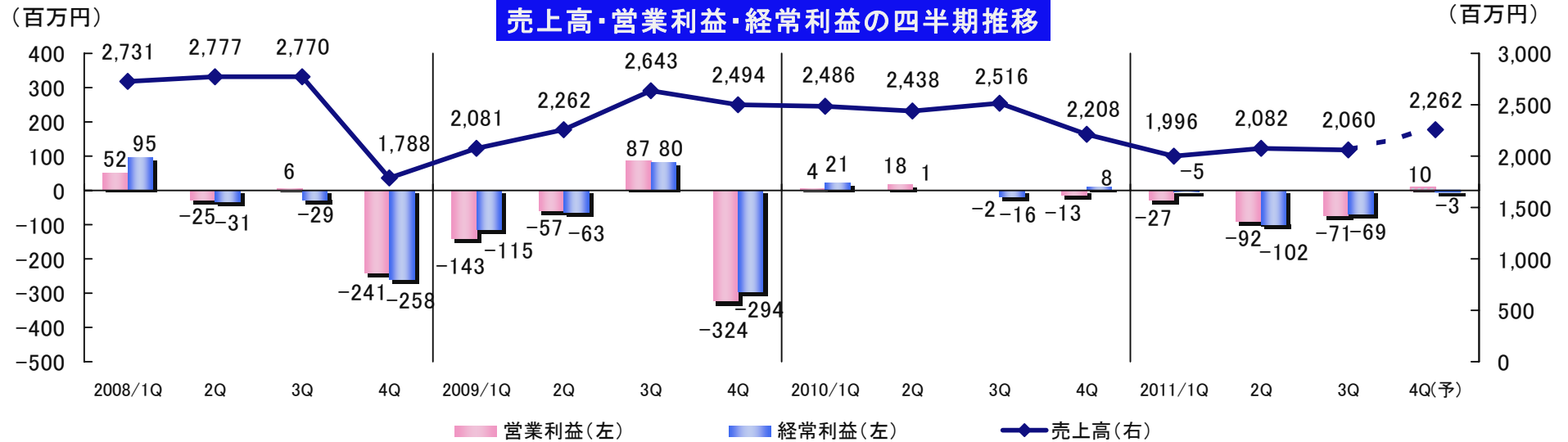
1. 日本国内は、急激な円高に加え、東日本大震災を受けて取引先の減産や、海外への生産移管が加速した。営業活動を強化するとともに、生産体制の強化にも取り組んだが、売上高は前年同期比▲22.7%の4,377百万円となった。
2. 海外においては、マレーシアにおいて携帯電話向けアクリルパネル等の受注増があったものの、タイの洪水による一部取引先の生産停止の影響を受けた。また、中国においては携帯電話の一部機種における量産終了にともない、受注量が大幅に減少した。

## 通期計画について

1. 引き続き厳しい受注環境にあり、3Q時点で計画をやや下回って推移しているが、第2四半期決算時に公表した計画値の達成に向けて最後までチャレンジする。
2. タッチパネル関連製品は、想定よりも収益貢献が遅れているものの、中期的な当社の成長ドライバーとしての位置づけに変わりはなく、引き続き重点的に取り組む。



# 四半期業績推移



# 四半期貸借対照表



	11/3 第3四半期末	11/3 期末	12/3 第3四半期末
流動資産	(7, 434)	(7, 217)	(6, 782)
現金及び預金	2, 971	3, 265	2, 813
売上債権	3, 168	2, 854	2, 762
棚卸資産	1, 011	812	1, 027
その他流動資産	283	285	179
固定資産	(4, 412)	(4, 312)	(4, 489)
資産合計	(11, 847)	(11, 530)	(11, 271)
流動負債	(2, 237)	(2, 005)	(2, 160)
買入債務	1, 785	1, 545	1, 743
その他流動負債	452	459	416
固定負債	(607)	(579)	(564)
退職給付引当金	468	440	435
その他固定負債	139	138	128
負債合計	(2, 844)	(2, 584)	(2, 724)
株主資本	(9, 148)	(9, 146)	(8, 877)
その他の包括利益累計額	(▲388)	(▲439)	(▲549)
少数株主持分	242	239	219
純資産合計	9, 002	8, 946	8, 547
負債純資産合計	(11, 847)	(11, 530)	(11, 271)

単位:百万円

# 今後の展開

# 事業環境と重点施策①



## 足もとの事業環境

### 国内

- 円高を背景に、取引先の海外への生産移管が加速。国内での受注量の減少に歯止めかからず。
- 東日本大震災による取引先の減産。

### 海外

- 中国の人件費高騰による原価の上昇。
- 現地企業との競合による受注単価の低下。
- デジカメ中心にタイの洪水による顧客の生産調整の影響。

## 対策

### 国内

- コストダウン活動の継続。
- 医療分野など、新市場を開拓し、収益源の多様化を図る。

### 海外

- 積極的な営業展開による、国内受注減少のカバー。
- 成長ドライバーとして位置づけるタッチパネル関連製品の受注・生産体制の整備を急ぎ、顧客が要求する納期対応などで価格以外の差別化を図る。

上記対策により、来期以降の業績回復に期待

# 事業環境と重点施策②



## 中長期の事業環境見通し

- 製品ライフサイクルの短期化、価格の低下傾向が続く。
- 取引先の海外生産へのシフトと、それに伴う部材の現地調達化の進行。
- タッチパネル関連事業は、顧客開拓の余地大。



## 対 策

### 国内

- コストダウン活動の継続。生産体制の見直し。
- 外注先を弾力的に活用し、製品の短サイクル化に対応。

### 海外

- ガラス加工技術と印刷技術の融合により、高級機種におけるアクリルからガラスへのシフトにも対応。
- 拡大を続ける中国市場における受注の取り込みを目指し、華中(蘇州)への営業所開設を検討。

# タッチパネル関連ビジネス進捗状況



## 今期の状況

- 東日本大震災やタイにおける洪水被害の影響、海外メーカーとの競合
- 上記に加え、静電容量式タッチパネルの気泡を防ぐ段差吸収技術の量産対応に時間がかかり、苦戦。  
⇒技術対応は完了(特許取得済)し、積極的な営業をスタート。来2013/3期はガラス製品と合わせ、タッチパネル関連製品は2億円/月規模の売上寄与を見込む。

### 携帯電話・スマートフォン

- スマートフォン向けは当初計画から遅れたものの、2月より量産を開始した。
- 従来型携帯電話向けは、一部国内向け機種が生産終了が響いた。

### ゲーム機

- 次世代小型ゲーム機向けの受注を獲得。
- ただし、ゲーム機の販売台数が伸びず、受注が当初見込みに届かなかった。

### デジタルカメラ

- タイの洪水による影響大きく、セットメーカーの生産回復に遅れ。
- 量産時期は未定であるものの、ガラス窓の試作品を複数機種に納入済み。受注獲得に期待。

### カーナビ

- 1機種 of 受注を獲得。
- 販売台数は多くないため、収益に対するインパクトは限定的。

# 新市場の開拓



## 医療機器向けシール

- ・ 業績への貢献度は小さいものの、受注は堅調であり、今後も積極的に取り組む。

## 非接触ICカード用「きせかえシート」

- ・ アミューズメント・玩具景品等オリジナル商品強化のひとつとして取り組んでいるものの、伸び悩み。引き続き営業活動を強化。

## 3Dレンチキュラー

- ・ 従来 of 他社製品に比べて完成度が高く、売り込み先から高い評価を得ている。
- ・ 店頭POP、ノベルティシールなど、販促品としての営業活動を展開。

## その他

- ・ LED照明用絶縁シートの営業を強化。

【きせかえシート】



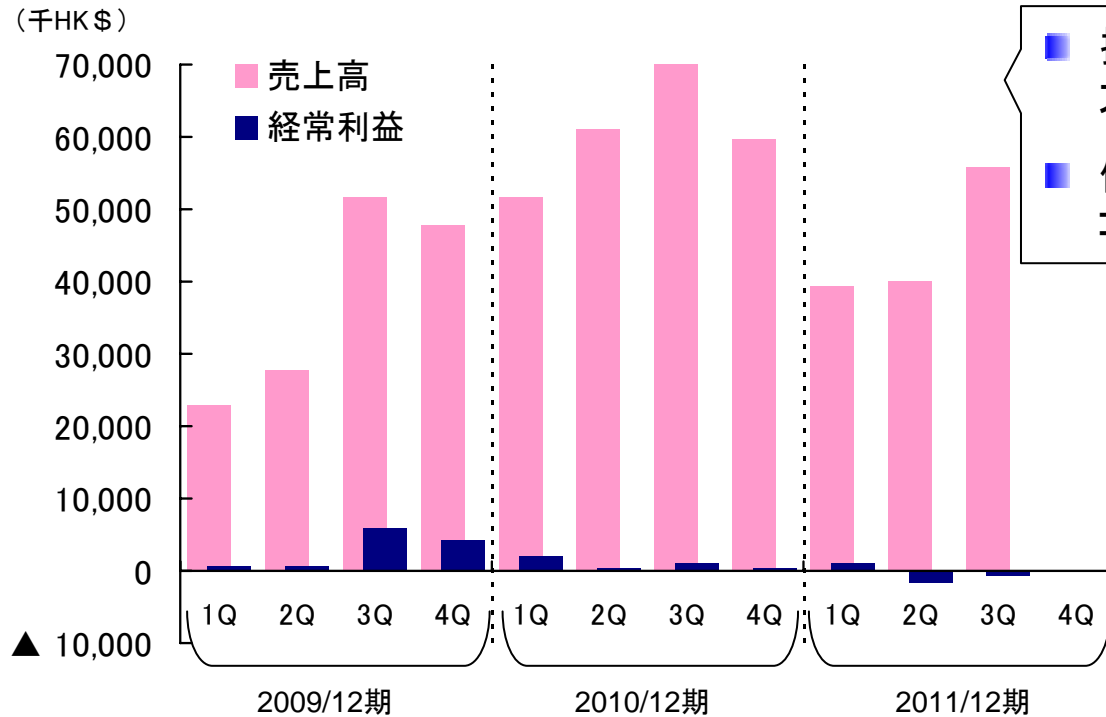
【3Dレンチキュラー】



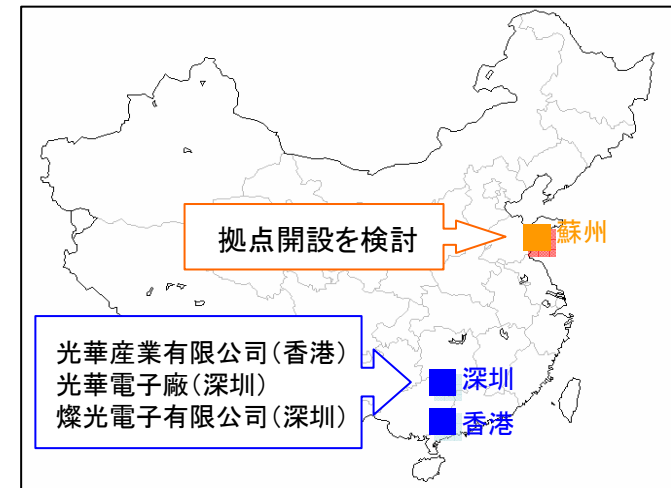
# 中国・光華産業の状況



光華産業 四半期売上高・経常利益の推移



- 携帯電話向けの受注減が響き、前期比大幅にマイナス。
- 価格引下げ要求がシビアなうえ、大幅なコストアップにより、収支改善に遅れ。



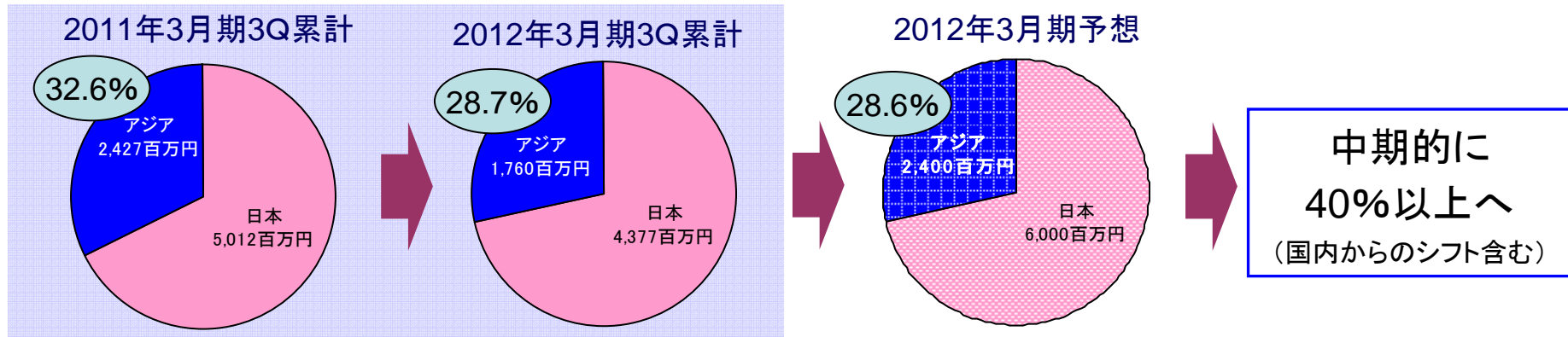


# 中国及び海外展開の今後の施策



## 現状

- 日本国内からシフトした案件の受け皿として、潜在的なビジネスチャンスは大きいものの、携帯機種が生産終了に加え現地メーカーとの競合等により、足もとは停滞している。
- 華南地域以外へ進出する当社大手顧客である日系メーカーもあり、対応が急務となっている。



## 今後の展開・課題

- 上記現状を踏まえ、蘇州での拠点開設は早期に結論を出す必要。
- また、人件費をはじめとするコストアップを理由に、新たな生産拠点を模索する動きも出ている。当社グループ(燦光電子)自体のコストアップも顕著であり、中国・マレーシアに続く、東南アジア域内での生産拠点設置を視野に入れて、市場調査を実施。
- 営業面では、国内営業部門との連携を強化。

# 中期数値目標

---



**売上高**      **年率3%成長の持続！**

**営業利益率**   **5%以上の早期達成！**

# 株主還元・資本政策について



## ■ 配当について

08/3期実績 13円 (13円の安定配当を継続)

09/3期実績 7円 (最終損失にともない減配)

10/3期実績 10円 (当初予定 普通配13円 ⇒ 普通配7円、50周年記念配3円)

11/3期実績 7円

12/3期計画 7円

} 収益状況・財政状態等を考慮し、7円配を継続(予定)

→ 収益力の強化に努め、08/3期まで実施していた13円配当の早期復活を目指します

## ■ 2008年12月25日に267,000株、2009年3月18日に840,000株、12月18日に60,000株の自己株式を取得

→ 当面は金庫株として保有し、今後、事業展開に応じて、企業価値の向上を実現するために機動的に活用いたします

本資料に掲載されている三光産業株式会社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から三光産業株式会社の経営者の判断に基づいて作成されております。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

## IRお問合せ

執行役員経理部長

高橋 光弘

TEL: 03-3403-8134

E-mail: m-takahashi@sankosangyo.co.jp